

高松市生涯学習センター 生涯学習推進事業 [庁内各課との連携事業]

『「PM2.5」の対応の仕方を学びましょう!』『「PM2.5」ってなに?冬から春にかけて濃度が高くなるのはなぜ?』を開催しました



「PM2.5」についての講座を、平成26年10月3日と、平成27年2月6日の二回に分け、高松市環境局環境指導課の職員を講師に迎え開催しました。

「PM2.5」の成分や、「PM2.5」が人体に及ぼす影響、発生の影響等について、Q&Aをもとに学びました。その中からいくつか抜粋します。

微小粒子物質 (PM2.5) に関するよくある質問 (Q&A)

Q、微小粒子状物質 (PM2.5) とは、どのようなものですか?

A、微小粒子物質 (PM2.5) とは、大気中に浮遊する小さな粒子のうち、粒子の大きさが $2.5 \mu\text{m}$ ($1 \mu\text{m} = 1\text{mm}$ の千分の1) 以下の非常に小さな粒子のことです。その成分には、炭素成分、硝酸塩、硫酸塩、アンモニウム塩のほか、ケイ素、ナトリウム、アルミニウムなどの無機元素などが含まれます。また、さまざまな粒径のものが含まれており、地域や季節、気象条件などによって組成も変動します。

Q、「暫定的な指針となる値」を超えた場合は、どのようなことに注意すればよいですか。

A、PM2.5濃度が暫定的な指針となる値を超えた場合には、その吸入を減らすため、屋外での長時間の激しい運動や外出をできるだけ減らすことは有効です。その際、屋内においても換気や窓の開閉を必要最小限にするなどにより、外気の屋内への侵入をできるだけ少なくする必要があります。特に呼吸器系や循環器系の疾患を有する者、小児、高齢者などは、より影響を受けやすい可能性があるため、普段から健康管理を心がけるとともに、体調の変化に注意することが大切です。また喫煙により、室内のPM2.5濃度が大きく上昇することが知られています。

Q、季節によってPM2.5の濃度は変動しますか。

A、例年、冬から春にかけてはPM2.5の濃度の変動が大きく、上昇する傾向が見られ、夏季から秋季にかけては比較的安定した濃度が観測されています。冬から春にかけては、大気汚染物質が地表付近に溜まる接地逆転層ができやすいことや、東アジアからの西風が卓越しやすいなど、PM2.5の濃度が高くなる気象条件になりやすい季節でだからです。

※接地逆転層…放射冷却（地表面から赤外線などが放射されて冷却すること）によって、地表近くの空気が強く冷却されたことで生成したもの。よく晴れた夜にみられる。



環境省の大気汚染物質広域監視システム

「そらまめくん」